

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	尾下 武
論文担当者	主査 坂口 太一
	副査 鈴木 敬一郎
	副査 新村 健
学位論文名	Predictors of movable type left atrial appendage thrombi in patients with atrial fibrillation (心房細動患者における可動型左心耳血栓の予測因子)
論文審査の結果の要旨	
<p>心房細動 (AF) 患者における左心耳血栓は心原性血栓塞栓症の主な原因であり、特に可動型血栓は血栓塞栓症のリスクが高いことが知られている。しかしながら可動型血栓の発生に関与する因子についてこれまでの検討は少ない。学位申請者は AF 患者における可動型左心耳血栓の予測因子について検討した。</p> <p>本研究は単施設後ろ向き研究である。AF に対する除細動またはカテーテルアブレーションの前に経食道心エコー検査 (TEE) を受けた 827 人の連続した患者のうち、心臓手術を受けた患者や有意な弁膜症のある患者を除外した 758 例 (年齢 67.6±9.3 歳、男性 535 人) を対象とした。</p> <p>左心耳血栓は 758 例中 57 例 (可動型 11 例、固定型 46 例) に認められた (7.5%)。可動型血栓患者 11 例と対照群 (固定型血栓あり+血栓なし) 747 例の 2 群に分けて検討した。単変量解析では、可動型血栓患者は対照群に比べ、E/e' ratio 高値、左室駆出率 (LVEF) 低値、左房容積係数高値、CRP 高値、非発作性心房細動の有病率高値、ワルファリン服用割合高値 (73% vs 21%、$P<0.0001$)、構造的な疾患の有病率高値を有意に認めた。多変量解析では、E/e' ratio、LVEF、ワルファリン服用が可動型血栓と有意に関連していた。そこで E/e' ratio、LVEF による可動型血栓の発生率を検討したところ、E/e' ratio が高く (E/e' ratio > 12.7)、LVEF が低下している (LVEF < 44%) 患者群で発生率が 14.3% と最も高かった。</p> <p>本研究から、E/e' ratio と LVEF は心房細動患者の可動型左心耳血栓を予測しうることが示唆された。リスクの高い患者には可動型左心耳血栓に対する強力な抗血栓療法や外科的治療を念頭に置き早期に TEE を行うことにより、心原性脳梗塞の予防に寄与する可能性があり、本研究は学位に値するものと評価した。</p>	